

夏のご挨拶をかねて

令和4年度の
活動のご報告



特定非営利活動法人ぴーす

堺市北区百舌鳥梅町3丁39-32

電話 072-250-9060 FAX 072-250-9061

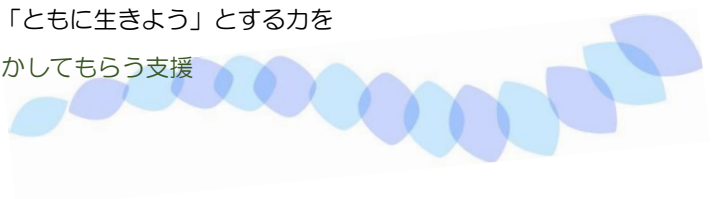
メール p-office@p-s-sakai.net

～ ぴーすのミッション ～

信頼に応える、ぴーすらしい「プロフェッショナル」で
ぴーすのテーマである「えんばわ支援」を行い
エンドユーザー：子どもの夢を実現する

～ ぴーすのテーマ ‘えんばわ支援’ ～

子どもの「自ら、成長しよう」とする力を
家族が「たのしく暮らそう」とする力を
周囲の「ともに生きよう」とする力を
めいっぱい活かしてもらう支援



表紙 ～ミッション～

ページ1 目次

ページ2 あいさつ

ページ3 **相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～**

■保護者からの相談

- ページ4
- ・びーすの支援プランセンター（障害児相談支援、計画相談支援）
 - ・びーすの児童デイびころ、ばんだ、あぼろ（児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援）
- ページ5
- ・びーすのあい・すてーしょん「訪問、外来」（堺市障害児等療育支援事業）
 - ・地域活動支援センターばれっと（堺市地域活動支援センター事業）
 - ・びーすのあい・すてーしょん「施設支援」（堺市障害児等療育支援事業）

ページ6 ■支援者からの相談

- ・保育所等訪問支援事業
- ・あい・すてーしょん「施設支援」
- ・障害児支援通所事業者育成事業

ページ7 **子ども・本人が参加するもの ～育てる・高める支援～**

- ・びーすの放課後支援活動、20年を振り返って
- ページ8
- ・児童発達支援 びーすの児童デイびころ
- ページ9
- ・放課後等デイ びーすの児童デイばんだ
- ページ10
- ・放課後等デイ びーすの児童デイあぼろ
- ページ11
- ・地域活動支援センターばれっと マラソンクラブ、しゃべり場、鉄道クラブ

ページ12 **保護者に届けたもの ～寄り添う・高める支援～**

- ・ばれっとプログラムで、自主的に支え合ったもの

ページ13

- ・母達の「学びたい！」に答えて

親子で、利用参加するもの ～育てる・高める支援～

- ・地域支援特別事業 おもちゃ広場

ページ14 **情報を提供するもの ～伝える・広げる支援～**

- ・メールニュースふぁにい
- ・生活支援グッズのお店 ぼっしえ

ページ15 **啓発や連携をするもの ～広める・つながる支援～**

- ・講師派遣
- ・他団体等とのコラボ
- ・広報活動

ページ16 事業一覧



暑中お見舞い 申し上げます

NPO 法人ぴーす 理事長の小田です。

いつも、ぴーすへの温かいご理解・ご支援・ご指導をいただき、ありがとうございます。

毎年、夏の暑い時期に、暑中見舞いをかねてお届けしている『前年度の活動報告』が完成しました。

どうぞ、お受け取りください。

コロナ禍の3年間を振り返ると、子どもたちは「子ども時代にしかできない大切な体験」の多くを奪われました。特にマスクで表情が見えないなど「子どもたちのコミュニケーション育成」に大事な環境が阻害されたこと等が個々の成長にどのような影響があるかは、今後明らかになると思われます。『ぴーすが意識すべき、アフターコロナ』としてこれからの活動につなげたいと思います。

さて、ぴーすの令和4年度は ①法人内連携を推進する ②1つ1つ丁寧な支援を行う ③各事業・スタッフの自立性を高めることを年間方針とし、活動しました。振り返ると、市民活動ボランティアは自発的にアイデアを出し合い、また新体制で開始した福祉事業も各事業の自律性が少しずつ深まり、すべての活動・事業が成長した一年となりました。特に連携については、事業やチームを超えた「連携」が日常的になり、悩みや不安をタイムリーに共有・相談できるムードが広がり、複数の目で検討することが「丁寧な支援」にもつながりました。コロナ禍のストレスが多い中で、創意工夫し頑張ってくれた職員やボランティアの皆さんには、心から感謝します。

さらに振り返ると、ぴーすの連携意識は内部だけでなく外部にも広がり、これまでおつきあいのなかった専門機関や法人といっしょに動くようになりました。小田個人の古い記憶を引き出すと、昔は「あの支援方法は一部の人がしていること、私たちには関係ない」「うちは、うち」という空気があり、お互いの支援を共有しづらかったように思います。しかし時代が変わり、共有・連携の重要性が認識され、スーパーバイズやコンサルという言葉もよく聞くようになり、さらに多職種連携という言葉も登場しています。これからの障害支援には「皆がともに考える・行う」が不可欠になっていくようです。そう思うと、ぴーすもさらに積極的に、勇気をもって、多様な人・機関と連携を進め『つながり』を広げていきたいと思います。

最後に「つながりを広げる」1つになるご報告をいたします。去る令和5年6月13日に、私は社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会(※)の理事長に就任いたしました。また、数日後に開催された全国手をつなぐ育成会連合会の定例総会にて理事に就任したこともあわせてご報告いたします。ぴーすで大切にしてきたことをもとに、大阪府へ・全国へ活動の幅を広げることとなります。それも合わせまして、これまで同様、ぴーすへの一層のご支援・ご協力のほどを、よろしくお願い申し上げます。

令和5年盛夏

特定非営利活動(NPO)法人ぴーす

理事長 小田多佳子



※手をつなぐ育成会とは、全国組織のある知的発達障害の団体です

相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～

■■ 保護者からの相談 ■■

障がい児の相談支援は難しい…とよく言われます。確かにいろいろな面で成人とは違う。母子保健・保育・教育の情報が不可欠ですし、その内容はどんどん進化しています。子どもの状態も「愛着形成が重要な幼児」「大きな成長がある小学生」「思春期の問題が出る中学生」「進路が重要となる高校生」と変わりますので、「支援の内容」も変化させなければなりません。さらに子育て支援も大事。この情報も年々変化しています。つまり、児童の相談支援は成人とは違う専門性を持ち、常に情報更新することが重要です。

平成 24 年度から障害児相談支援が開始され、「障がい児の相談」というと、『障害児相談支援』のイメージが強いようですが、実際はサービスでは解決しない悩みが多いです。例えば健診で発達の遅れが発見された場合、最も重要なのは母の心のケアです。小学校の通常学級でがんばる発達障がい児は、サービスが不要でも母には「育てにくさや学校の悩み」があります。また、きょうだいのことや両親の不仲、地域とのつきあいなど、実は悩みがあふれているのです。

ぴーすには、各事業所や法人のホームページ等のさまざまな窓口、年間を通して、上にあげたようないろんな相談が入ってきます。それを、ぴーすの方針「断らない支援」を実施するため、工夫しながら対応しています。

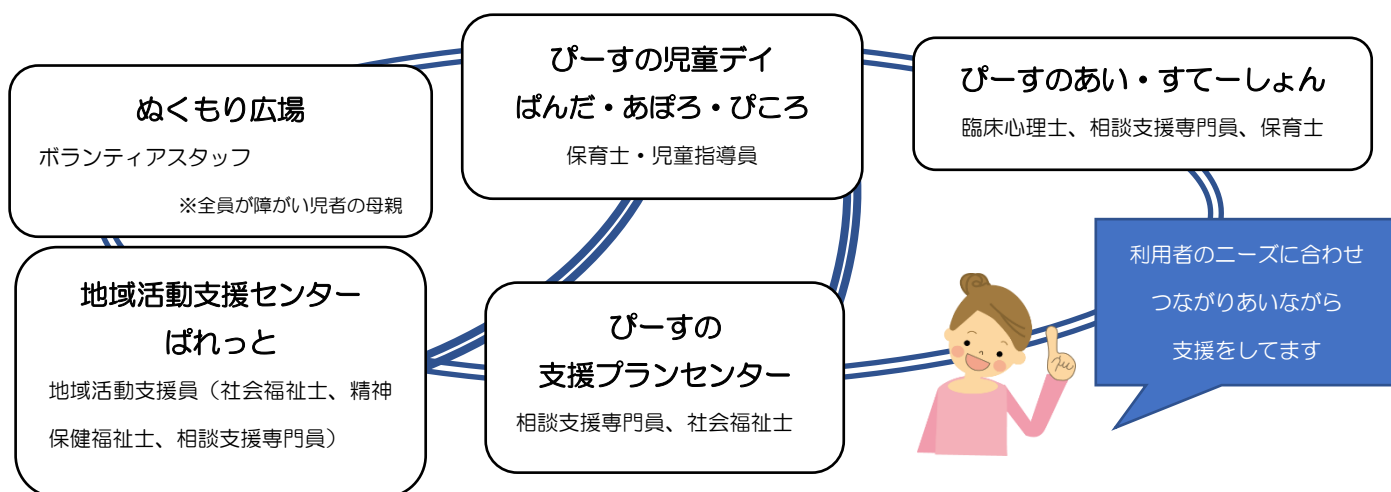
「保護者からの相談」に対し、ぴーすの「相談対応の形態」は、6種類あります。

1. ぴーセンでの『障害児相談支援』『計画相談支援』
2. デイ事業所での『事業所内相談支援』
3. 保育所等訪問支援での『家庭連携』
4. あいすて『来所での相談』『訪問しての相談』
5. あいすて『施設支援』の中での「保護者面談」「家庭訪問」
6. ぱれっとでの『来所相談』

1～3は利用契約者です。
4～6は契約不要で相談に応じています。
ただし5は、継続的にご利用の場合、登録していただいています。

ぴーすが大切にしていること

どの事業・窓口から入ってきても、法人内でつながり・対応する『連携の仕組み』



ぴーす内では解決しないことは、積極的に関係機関や他事業所との連携を取り入れています。
令和4年度の相談対応は、実人数が636名（うち新規180名）。相談件数は5,291件となりました。

相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～

■■ 保護者からの相談 ■■

前述の「保護者からの相談」に対応したものについて、形態別に1つ1つ、担当スタッフより報告をします。

■福祉サービス等のプランなど行う

ぴーすの支援プランセンター（ぴーセン） 障害児相談支援、特定計画相談支援

令和3年度に相談支援専門員が一新。令和4年度は2年目ということもあり、利用者のご協力のもと、それぞれ安定して利用していただけたと感じています。ありがとうございました。また「コロナ禍」ではありましたが、サービス担当者会議のオンライン化が定着し、実際の支援の様子を動画で…など工夫をしてくれた学校や事業所もありました。ご協力に感謝いたします。



同時に、令和4年度は、「ぴーセン（計画相談支援）ぱれっと（地域活動支援センター）施設支援（あい・すてーしょん）保育所等訪問支援（ぴころでの多機能事業）」を1チームにする体制を本格的にスタートしました。

毎週チームで会議を開き、困難ケースの検討、地域資源の情報共有、それぞれの業務内容の効率化などについて話し合いました。それにより支援の質の向上だけでなく、チーム内での連携が進み、それぞれの仕事への理解も深まったと感じています。まだ発展途上ではありますが、今後もこの形を継続して、令和5年度の法人の年間方針である「アセスメント力のアップ」に努めていきたいと考えています。

ご承知の方も多いと思いますが、ぴーすの相談支援は、「児童の専門性」を高めつづけることを重視し、一定の年齢がきたら別事業所に引継ぐなどして『卒業』をしていただいています。これは利用者の理解あってのこと。承諾していただいた利用者の皆様には、心から感謝します。令和4年度も複数のお子さんが卒業されました。

卒業した子・保護者には、地域活動支援センターぱれっとを紹介し、本人は「成人後の地域活動の場として」保護者には「成人した後の相談の場として」つながり続けられるよう工夫しています。卒業後も、それぞれに合った形で活用していただいています。

利用契約者数 障害児相談、75名（年度末） 相談者実数 78名 相談対応数 1815件

■通所サービスを利用中の「保護者の相談」

ぴーすの児童デイ ぴころ・ぱんだ・あぼろ 児童発達支援・放課後等デイサービス

デイの3事業所、それぞれの利用児童の年齢や特性が幅広いため、保護者からの相談も多種多様になってきています。例えば、歯医者や散髪、良い所は？特性ゆえの近所への騒音が心配、ゲームに夢中になりがち、中学・高校への進学が心配などです。対応しながら、いつも悩みの向こうに「相談できる人」を求めておられるように感じています。現在は「検索すれば答が出てくる」世の中だからこそ、直接顔を合わせて話す機会が大切。ぴーすの強みとして、先輩母スタッフの経験を伝えたり、保護者同士が話せるセミナーへ案内して、悩みをひとりで抱え込まない環境作りを支援しています。

相談者実数 105名 相談対応数 271件

ぴーすの児童デイ ぴころ 保育所等訪問支援

事業の特徴上、主に園・学校での悩み事についての相談が多いです。友だちとうまく関われない、板書が難しい、学習方法、行事への参加の仕方、登校渋り、先生との関わり方、進路など様々です。その相談内容にあわせ、具体的な支援方法等のアドバイスをしたり、保護者といっしょに考えたり、それを園・学校と共有し、子どもたちが安心して園・学校に通えるように対応しています。

相談者実数 42名 相談対応数 837件（学校園含む）



相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～

■受給者証を取得していない（サービスを利用していない）保護者の相談

ぴーすのあい・すてーしょん（訪問・外来） 堺市障害児等療育支援事業

ぴーすに入る相談のうち、乳幼児は、保健センターの健診がきっかけでぴーすにつながる場合が多いです。

令和4年度も健診で発達のみならず気づき、ぴーすの遊び場を利用するため来所。その後、継続的に相談されるケースが多くありました。また、令和3年度に遊び場利用していたお子さんが、令和4年度に就園し、その後に療育の必要を感じ、再びぴーすへ相談するというケースも多々ありました。年齢とともに変わる保護者の悩みに寄り添いながら、その時に必要な情報を伝え、保護者とともに考えています。

また、年中・年長児や学齢期のお子さんの場合は、学校や園などの集団生活に大変さを感じて「どうしたらいいですか？」という相談が入ります。発達の遅れに気づいていても、福祉サービス利用に至るまでの保護者の葛藤はとても大きいものです。令和4年度もその葛藤に悩み・揺れる保護者がたくさんおられました。サービス利用への道案内はもちろん重要ですが、それ以上に、保護者へ寄り添う姿勢が必要と感じました。

相談者実数 71 名 相談対応数 310 件

■受給者証を取得済み（サービス利用中）の保護者の相談

地域活動支援センターぱれっと 堺市地域活動支援センター生活支援型 B タイプ

ぱれっとでは、すでにサービスを利用している保護者の相談に対応させていただいています。ぱれっと交流室には多数の資料（事業所パンフレット含む）があるので「それを見たい！」と来所される方や、「高校生になったばかりだけど卒業後にどんな福祉サービスが使える？」「運動ができるディって、どんなことするの？」などの相談がしばしばあるので一人ひとりの状態の把握をさせてもらいながら、いっしょにお子さんにあった事業所や暮らしの工夫を考えています。

またぱれっとではセミナーやプログラムを多数開催していますので、その流れから「進路について、日常生活での過ごし方、子どもたちにわかりやすく片付け方やルールを説明する方法」などの相談にも対応しています。逆に、ぴーす内の別の事業所から「ぱれっとでの相談を」とつながることも多く、委託相談ならではの様々な、多岐にわたる内容に対応しています。もちろん、ぱれっとで対応しきれない内容は、ぴーす内外問わず連携、情報共有を行いながら対応しています。

相談者実数 119 名（成人含む） 相談対応数 1,055 件

■学校園や事業所からの依頼で、保護者の相談に応じる

ぴーすのあい・すてーしょん（施設支援） 堺市障害児等療育支援事業

学校から依頼を受けての保護者相談では、主に「家ででの困りごと」に対して相談に応じています例えば、ゲームがなかなかやめられない、お家の人が言わないと宿題をやらない、友達のカードを盗ってしまったがどう指導したらいいかわからない・・・など、学校の先生に相談してもなかなか解決しないことや、学校以外のことも含め、さまざまな困りごとに対して心理士の立場から、どのような関わりや声掛けをしたらよいかなどの助言をしました。

また福祉的な面では、小学校に入ってから障がいの疑いに気づいた場合などは保護者が福祉の情報をほとんど持っていません。そこで、子どもを支援する福祉情報（障がい以外の情報も含め）を保護者の思いや意向に寄り添って、説明するなど行いました。



相談者実数 221 名（施設含む） 相談対応数 956 件（施設含む）

相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～

■ 支援者からの相談 ■

続いては、支援者からの相談について、担当スタッフより報告します。

ここ数年、保育所・幼稚園・子ども園や学校、デイサービス事業所など「直接、子どもたちへ指導・支援している人」からの相談が増えています。それを、びーすらしく支援するため、3つの形で対応しています。

1つめは、心理担当職員による児童のアセスメント（検査等で抱えている課題を明確にする）。

2つめは、教育と福祉が機能的に連携するための支援（相談支援の手法で）。

3つめは、保護者とのコミュニケーションを円滑にするための支援（ばれっとのびあ相談を取り入れることも）。

事業形態は、『保育所等訪問支援』、『施設支援（あいすての1つ）』、『障害児通所事業者育成事業』です。

■ 学校園の訪問など・**びーすの保育所等訪問支援事業** びーすの児童デイびころ/多機能事業として

保護者の依頼で、学校や保育所などを訪問し、現場に入り込んで行うアウトリーチ型の発達支援事業です。

子どもへの直接支援や訪問先への助言などの間接支援を行い、保護者への報告を行っています。利用保護者からは「子どもの様子が分かる、成長を実感できた、学校や保育所等での取り組みが理解できた」等の感想を頂いています。

また、昨今重要といわれる学校現場と福祉職の連携が、保育所等訪問支援を活用することで、相談支援・デイサービスと学校の先生方が連携できることも増えました。

■ 学校園を含む「施設」からの依頼で・**びーすのあい・すてーしょんによる『施設支援』**

学校や保育所・デイ事業所など「施設」からの依頼を受け、相談や助言を行う事業。令和4年度は、より幅広いニーズに対応していくために心理担当職員を増員、3名体制となりました。また、令和3年度より取り組んできた新しい形「依頼を受ける前の聞き取りやニーズ整理を丁寧に行う」「一つひとつを丁寧にアセスメントしてチームで検討する」という対応が各学校に定着し、よりびーすらしいお付き合いができるようになってきました。以前は検査・説明をして一旦対応が終わっていたのが、検査・説明の後に「よりその子にとって何が必要か」をアセスメントし、必要に応じて病院や福祉の関係機関に繋いで連携するといったケースが増えてきました。

一年を振り返ると、びーすだけに関わるのではなく、より多くの関係機関と

連携し、それぞれの得意なことを意識しながら役割に応じて、『一つのケースに複数の関係機関が関わる』といった形を構築していけるようになってきたと感じています。



■ デイ事業所を訪問して・**堺市障害児通所事業者育成事業**

デイサービス事業所を訪問し、事業所が抱える悩みや困り事に対して助言を行う事業です。

令和4年度は受託5年目でした。実施している4法人が2ヵ月に一度『連絡会』を行い、共通する課題などを見つけ、堺市全体の支援力アップにつながるよう取り組んでいます。

研修を年3回実施しますが、令和3年度と同じくオンラインで開催。オンラインは多くの職員が受講できると好評でした。

年度末に堺市が利用に関するアンケート調査を実施。育成事業を「とても満足」「やや満足」と満足度100%でした。内容については、子どもへの支援だけでなく、保護者のこと・運営のことなど幅広い様々なテーマで「よかった」と評価をいただきました。「またこの事業を利用したいか」との項目については8割以上が「ぜひ利用したい」と回答があり、期待していただいていることをしっかり受け止め、これからも精進しようと思います。

子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

びーすの放課後を支援する事業は、平成17年の法人設立より前の「ボランティアで行っていた障がい児放課後クラブ」が前身です。そのクラブ開始から数えると20年ほどになります。

そこで、当時のクラブを実施していた小田理事長より「20年を振り返って」コラムを掲載します。

自分が行ってきた「障がい児の放課後活動」について振り返ると、始まりは平成15年になります。

私の息子は百舌鳥養護学校の小学4年生でした。ちょうど日本は、障害福祉を措置から利用契約へ・・・という流れがあり、各地で激しい議論が飛び交っていた頃です。また発達障害という言葉が登場。私はそれを堺市で広めたいと「草の根の啓発活動」をはじめていたところでした。

その頃の堺市の障がい児の放課後事情は…ということ、希望の会という障害者団体が「障害のある子どものびのびルームを利用したい」などの運動をされていました。その一環として障害児の放課後について、保護者アンケートで調査されました。私はその結果を見て（薄々わかっていたことだけど）愕然としました。調査結果では、ほとんどの障がい児が放課後は母親と過ごし、出かける場所もスーパーへの買い物程度。これが学齢期の間ずっと続く。年齢らしい生活ができない、子ども時代に経験すべき大切な「いろいろ」が与えられていない。それが成人した後の生活にも大きく影響する。その状況に憤りとむなしさとあきらめ・・・なんとも複雑な心境でした。

そんな中、小学校時代をのびのびルームで過ごした中学生の保護者さんが放課後クラブを立ち上げ、堺市はそれに「家賃補助する事業」を開始したと聞き、私の「やりたがり精神」に火が！！養護学校の同級生の母達に「養護学校の子でも放課後活動は重要、いっしょにやろうよ！」と提案。それがびーすのデイの基礎になった『障がい児放課後クラブばる』です。小5・小6の保護者6名で一軒家を借り、ボランティアを募り、開始後は毎日学校へボランティアといっしょに迎えにいき、南海バスで下校、クラブの家で数時間を友人と過ごす活動を行いました。また、当時はまだ社会的認知が低かった「知的障がい児への視覚支援」を取入れ、スケジュールや手順書を個別に作成し、特に「自己選択・決定」の支援に力を入れて、重度の知的障害があっても「自分でわかる、納得する」「自分で選ぶ、それを伝える」「できることは時間がかかっても自分で行う」などを目標に支援しました。その支援の方針も、今のびーすのデイに引き継がれています。

堺市の事業は、家賃補助から活動費用を補助する事業に変わり、さらに平成24年度に国の事業『放課後等デイサービス』が登場しました。しかし、びーすで実施されている放課後活動の方針は変わっていません。どんな状態のお子さんであれ、その子の持つ「成長する力」をめいっぱい生かし、ステキな大人になってもらうための支援です。今では、重度知的障害だけでなく、手帳のない子もいますし、児童発達支援には幼児もご利用くださっています。どの子も「自分らしく大きくな～れ」と母心で（いや、もう祖母心ですが・・・）願っています。

ボランティアで開始した放課後活動、あれから20年弱、クラブ開始当初の子どもは30歳になりました。また、開始後「私の子も通いたい」と次々と後輩の子どもたちが入ってきたので、小1から利用した子もいます。ある子は現在22歳、とても行動障害が強く、保護者・先生といっしょに何度も何度も悩みながら支援をしましたが、今では落ち着いて生活介護に通いながら、彼らしく豊かに暮らしていると聞いて、安心しました。

子どもたちの成長が何よりものご褒美です！

国は、障がい児の通所事業を令和6年度より大きく変えると言っています。それが子どもたちにどんな影響をもたらすか？年々人数も幅も増える「通所事業の対象となる子どもたち」に思いをはせ、びーすが大切にしている放課後活動を、これからも継続していきたいと思います。



子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

びーすの児童デイびころ

児童発達支援事業（放課後等デイサービスあり）

びーすの児童デイ事業の中で、びころは、主に就学前のお子さんを対象としています。平日は、在宅の1歳児や保育所等に通う園児で療育が必要な子を対象に活動しました。土曜は、支援学校を利用の子を含め小学2年生までを対象として、趣味・余暇と出会う活動に取り組みました。〈利用契約数 27名（年度末） 利用延べ回数 1,282回〉



びーすの児童デイ
びころ

～スタッフより～

令和4年度は、午前クラスは主に2・3歳の児童が、午後クラスは年長児が大半を占めるクラス編成の中で行いました。新しくびころのクラスに加わった2歳の児童も、新しい環境にもあつという間に慣れていきました。



地域の保育園や幼稚園に通いながら、びころを利用している児童の中には、集団の中だと先生からの口頭指示だけではうまく動けないというお話も保護者から聞き、担任の先生が療育の様子を見学に来られることもありました。また、こういった物を使って療育をしているのか、支援の物を写真に撮って帰られる保護者の方もいらっしゃり、それを自宅の支援に活かそうとさせていただいていました。

びころは平日と土曜日を合わせると、1歳半から小学2年生まで幅広い年齢の児童が通えるということもあり、きょうだいで利用されている方もいらっしゃいました。お兄ちゃんが通ってみて、「弟にも早期療育を受けさせてみたい」という親御さんの思いが感じられました。

設定保育では、某ハンバーガー店のレジ店員役とお客さん役に分かれて、役割を演じながらやりとりをする形のお店屋さんごっこをしました。

文字が読める児童には、やりとりのセリフを見ながら、挨拶から注文の仕方、お金のやりとり等をしてもらいました。お店屋さんごっこは、

役割になりきって遊ぶ経験から、想像力やコミュニケーション力が育まれます。玩具のポイントカードをお財布に用意しておく、店員役は「ポイントつけますか？」とアドリブで言う児童もいたり、ある子はイートインコーナーのように、食事エリアに商品を運んで食べる真似をしていました。子供たちの様子を見てみると、普段ご家族がお買い物をしている姿をよく観察しているなあと感じました。



その他にも、大きな模造紙に絵具でおもいきりお絵描きする設定保育も行いました。広いキャンパスに筆で自由に線を描いてとっても楽しそうでした。色混ぜをして色の変化を楽しんでいる子もいました。普段は在宅でお家で過ごしている児童も、翌年入園するまでの準備期間として、びころでたくさんの経験を積んでもらいました。この経験を通して、次のステップに育っていく頼もしい姿と一緒に見せてもらえることを嬉しく思いま

す。手が汚れるのが苦手な児童も、夏場にカラフルな寒天を使った遊びを行うと「冷たい！」と言いながらも気持ち良さそうに感触を楽しむ様子も見られました。“ちょっと苦手”なことでも、楽しさが上回ると“面白い”になるという体験を今後も経験していってほしいと思っています。



子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

ぴーすの児童デイぱんだ

児童発達支援・放課後等デイサービス事業

ぱんだでは、主に放課後等デイサービスを実施。言葉の会話が可能な子を対象として、平日はSSTを組入れた活動など、土曜は集団で趣味・余暇の力を育む活動を行っています。

<利用契約数 37名(年度末) 利用延べ回数 1,966回>



～スタッフより～

令和4年度のぱんだは、前年度に引き続き小学校1年生から高校3年生まで幅広い学年層で年齢差のあるメンバー編成で活動いたしました。特に小学校低学年の利用が増加したことや、曜日によっても『色々』という表現がぴったりのメンバーが揃いました。その中で『好きなこと・嫌いなこと・得意なこと・苦手なこと・・・』が多様で、「どうしたらみんなで気持ちよく過ごすことができるのか」、それぞれの色を出しつつも心地よい色に混ざって美しく輝いていく！そんな様子がみられた年度となりました。

◆平日の活動◆

【月曜日】は、引っ込み思案なメンバーがどんどん積極的になり勇気を持って挑戦することで、集団の中で『**自分の役割**』や『**居場所**』を見つけて活動できるようになりました。【火曜日】は、自分の好きなことにとことん取り組み、喧嘩をしながらも最後にはお互いの存在を認め合い、素直に『**ありがとう**』『**ごめんなさい**』を言い合える集団となりました。【水曜日】は、しっかりと自分を持ちながらも『**相手を尊重できる**』メンバーが揃いました。お互いに助けあったり手伝ったり好きなことにはしっかり集中し、上手に居心地よい距離感で活動できました。【木曜日】は、動くことが好きなメンバーと、静かに一カ所で集中したいメンバーが同じ場所で過ごしましたが、いつの間にか何となく自然とお互いに気を使うことのできる『**飾らない自然な自分を出しあえる**』集団となりました。【金曜日】は、おやつや料理を作ったり外出したりを体験することで『**みんなで協力して取り組む**』ことが自然にできる集団となりました。



■土曜日の活動■

【**昼食クッキング・おやつクッキング**】は、苦手だった作業や食べものでも、メンバー間で協力しあえば『**頑張ってみよう！食べてみよう！**』と、どんどん積極的に活動されていく様子が多くみられました。【**スポーツ**】は、毎回様々な場所へ外出する取り組みでしたが、公共交通機関の利用や交通ルールを遵守し活動されました。特に公園の利用方法については『**自分でおやつのごみを片付け、使う前よりも綺麗にする**』など、自発的な意識を高く持って活動されていました。【**アート**】は、毎回スタッフが作品のテーマを提示していますが・・・必ずスタッフの想定範囲を越え素晴らしい『**想像力・創造性・技術力**』の作品を完成されました。また材料や道具を『**大切に使う**』という意識を持って、最高のパフォーマンスを発揮されていました。



子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

びーすの児童デイあぼろ

児童発達支援・放課後等デイサービス事業



あぼろでは、個別の介護・支援が必要な重度障害児を対象とし、

平日は自立に向けた生活訓練を、土曜は個別で行う趣味・余暇の力を育む

プログラム活動を行いました。＜利用契約数 21 名（年度末） 利用延べ回数 1,538 回＞

びーすの児童デイ
あぼろ

～スタッフより～

令和4年度のあぼろは、昨年度と変わらないメンバーでスタートしましたが、夏休み直前に、新規利用者が3名増え、どの曜日にもぎやかな活動になりました。

メインの活動は、メンバー構成によって多少の変更はしたものの、平日は個別の活動をメインとし、個々の遊び・学習・買い物・家事練習など、あらかじめ設定した時間の中でメリハリをつけて取り組む活動を行いました。

小学生低学年は、「遊びを豊かにする」活動を中心に、好きな遊びを楽しむ・スタッフと一緒に楽しむ・公園で体をしっかり動かすなどを行い、好きな活動と好きな活動の間には、学習やお手伝いなど少し頑張る活動もスタッフと一緒に取り組みました。

学習では、机に向かうことからスタート。最初は得意な課題から始め少しずつステップアップ！

うまくいかないと「悔しい」「やりたくない」という子どもたちの姿はありますが、スタッフの介助の元チャレンジすることを大事に何度も練習しているうちに気づくと1人でできるようになっていて「あれ？いつの間に一人でできるようになったの?!」と気づいた時、成長を感じて嬉しくなりました。



小学生高学年～中高生は、学習・お手伝いなど個々の活動の他に特定の友人とペアリングした活動や少人数のグループ活動を行い、「友人と楽しむ」「友人と協力する」場面も作りました。グループ分けは、部屋ごとのメンバーや同年代のメンバーなどお互いにとって馴染みのあるグループ構成にし、意識しやすい環境作りを行いました。

例えば、部屋ごとのペア活動では、散歩に行く時に手を繋ぎ「一緒に歩く」を経験しました。毎回一緒に行くことで、スタッフの声掛けがなくても、自分たちで気づいて手を繋ぐ姿が見られ、スタッフが介入しなくても2人の関係性ができているなど感じました。2人は、部屋の中でも一緒に過ごすことが増え、一緒に遊んだり、イタズラしたり、なにをするわけでもないけど近くにいることを楽しんでいるような姿がとても印象的でした。



子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

地域活動支援センターぱれっと

堺市地域活動支援センター事業 生活支援型Bタイプ

地域活動支援センターは地域で孤立しがちな『障がい児とその家族』のための居場所支援と相談対応、そして週2回程度のプログラムで、当事者の力を高める支援を行う事業です。

ぱれっとは火曜～土曜に開所し、日常的な居場所支援を行うとともに、平日には【障がい児母親】が参加するプログラムを、土曜日に「日頃学校や事業所等に通う青年など」が参加できるプログラムを実施しました。令和4年度の来所者数は、総延べ人数 1,151 名（内、登録利用者 709 名、未登録利用者 442 名）プログラムは 64 回実施し 延べ人数 522 名となりました。



マラソンクラブ

第1土曜

～スタッフより～

新しい仲間が徐々に増え、一層にぎやかになってきました。

仲間と一緒にストレッチや体操をし、個々にその日の目標を決めて走るスタイルが定着しています。

暑い時期も寒い時期も一生懸命走った後は「がんばった～！」

という達成感でみんなの汗が光っています。

「走ることを楽しもう！」をモットーに、元気いっぱいの活動

ができました。

<全 11 回開催 延べ 98 名参加>



しゃべり場

第2・第4土曜

～スタッフより～

「ぴーすの様々な事業を通じて児童期に支援を受けていた子どもさんたちが、成人後自らの意思でしゃべり場に来てくれたら。」という願いで、しゃべり場を開催しています。今ではすっかり定着し毎回予約をして楽しみにしてくださっている方が多いです。

年齢層は幅広く中学生から 60 歳まで。新規利用者や、見学の方も多です。平日学校や仕事、作業などでお疲れの皆様がほこりできる場所となっています。ミーティング以外は自由スタイルで、トランプや塗り絵など皆さんがしたいことをして過ごされています。

<全 22 回開催 延べ 141 名参加>



鉄道クラブ

第3土曜

～スタッフより～

交流室にめいっぴいプラレールを広げて思う存分お気に入りの車両を走らせ、どの子どもも生き生きと嬉しそう。ご一緒に来られた保護者さまも子どもたちを安心して遊ばせる事ができ、その様子を見ながらほっと一息。園や学校で日頃頑張っている子どもの息抜き、親子で良い時間を過ごせる癒やしの場となっています。

<全 12 回開催 延べ 41 名参加>



保護者に届けたもの ～寄り添う・高める支援～

びーすは法人設立以前より、障がい児の母親同士の『支え合い』を大切に活動してきました。

同じ立場だからこそ、わかりあえる。我が子の障がいに気づき、不安に震える後輩を見れば「私もそうだった」と思いだし、力になりたいと思う。子どもの育てにくさに困っている母と会えば、「自分も同じ」と気づき、その解決を共に学ぼうとする。そんな支え合いを続けて25年たちますが、今でも活動を担っているのは母親ボランティアです。

令和4年度のボランティア登録数は50名。毎年「びーすを卒業する親子」と「びーすの仲間になる親子」がいますが、ここ数年、人数が少しずつ増えています。また、お子さんの年齢は幼児～20歳代までと幅が広がっています。

■■ ぱれっとプログラムで、自主的に支え合ったもの ■■

「相談するほどじゃないけど、誰かに聞いてほしい」「先輩の話を聞いてみたい」という声に応える『母たちのおしゃべり会』。地域活動支援センターぱれっとのプログラムとして実施しています。令和4年度も6種類を用意。それぞれメンバーの自主性を大切に、何をするかは数名のリーダー役と職員が定例会議を行って決めました。参加者はいつでも・自分に合うものを選んで参加。複数に参加する人も多くいました。令和4年度の参加状況は以下の通りです。

プログラム名	内容	実施回数	延べ人数
ぼかぼか工房	工作好きな母たちがいろんな作品を作りながら、おしゃべり	22回	57名
わくわくワーク	おもちゃ消毒やパンフレット整備をしながら、おしゃべり	18回	26名
ふわふわモック	ぼっしえの支援グッズの企画検討をしながら、おしゃべり	17回	68名
不登校かふえ ゆるり	不登校に悩む母たちがストレス発散しながら、おしゃべり	5回	13名
情報かふえ ほっと	障がい児に役立つ情報を、オンライン&対面でおしゃべり	2回	8名
リーダー会議など	毎月の定例会議、年3回の全体会議、セミナー打合せ等	19回	34名

令和4年度は感染対策を徹底しつつ、できるだけ通常のプログラム活動ができるよう、心がけました。コロナ禍でなかなか会ってお話することができないこともあり、対面でおしゃべりしながらの活動はどのプログラムも活気あるものになりました。また『定期開催』だけでなく、「もっと別の日でも活動したい」というリクエストがあり、令和4年度も引き続き追加の『特別活動』を実施しました。上記の回数は、そのすべてを合わせたものです。



保護者に届けたもの ～寄り添う・高める支援～

■■ 母たちの「学びたい！」にこたえて ■■ ぱれっと特別セミナー・あい・ふぁいる活用セミナー

びーすが得意な「少し先輩の母」が体験談を元に講師をするセミナーや「専門家」を招いてのセミナーを実施しました。

以下、令和4年度の内容です。

※は、堺市手をつなぐ育成会とのコラボで実施

月 日	タイトル、講師等	形態	参加数
6月30日 ※	堺市育成会記念講演会「やってみよう、続けてみよう家庭での暮らし支援」 講師：(株)おめめどう代表取締役 奥平綾子さん	ハイブリッド	73名
8月19日	重度自閉症者(児)の未来の暮らしⅡ～GIGA スクール2年目を迎えた支援学校の様子から考える～ ICT、IoTのある暮らし 講師：ICT アクセシビリティアドバイザー (AAICT) 中園正吾さん	対面	7名
11月8日	あい・ふぁいる活用セミナー『あい・ふぁいるで「つなげよう!」「つながろう!!」』 講師：ぴあリーダー	対面	3名
11月22日	先輩ママにきく おしゃべり会～支援学級/学校ってどんなところ?～小学校編 ゲスト：地域の小学校や支援学校小学部に子どもが通う先輩ママ	対面	9名
11月29日	先輩ママにきく おしゃべり会～学校生活/受験対策について～中学校編 ゲスト：地域の中学校や支援学校中学部に子どもが通う先輩ママ	対面	8名
12月6日	先輩ママにきく おしゃべり会～学校生活/進路について～高校編 ゲスト：公立高校、高等支援学校、高等専修学校に通う先輩ママ	対面	7名
1月21日 午前	あい・ふぁいる活用セミナー『あい・ふぁいるで「つなげよう!」「つながろう!!」』 講師：ぴあリーダー	対面	1名
2月28日	先輩ママにきく おしゃべり会～学校生活/受験対策について～中学校編 ゲスト：地域の中学校や支援学校中学部に子どもが通う先輩ママ	対面	5名
3月25日	あい・ふぁいる活用セミナー『あい・ふぁいるで「つなげよう!」「つながろう!!」』 講師：ぴあリーダー	対面	2名

親子で、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～

おもちゃ広場

堺市(委託)地域支援特別事業

「親子の居場所、保護者の学習会、あい・ふぁいる活用セミナー等を、年間20回

開催する」という事業です。(あい・ふぁいるセミナーは、上の表で報告)

令和4年度は受託8年目となり『おもちゃ広場』を11月から毎週水曜日に

『びころ』にて実施しました。おもちゃ広場の対象児は1～2歳。健診などで

発達のつまずきに気づいた親子が利用します。この時期の親子はとてもナイーブで丁寧な

対応が必要。そこでPRは保健センターのみにしぼり、担当保健師としっかり連携しながら支援をしています。

令和4年度は、コロナ禍になってから子育てが始まったという親子が多く集まりました。遊びの経験を安心できる

場所でしっかり積みたいというニーズに、これまでどおり、びーすならではの「親子でホッとできる場所」を提供しつつ、

相談員や先輩お母さんに相談、参加者同士の交流を支援しました。参加者からは「通年の参加が出来たら…」との声も…。

毎年いただく希望に添える日が来ることを私たちも願っています

。<全17回実施 参加親子数 延べ56組128名>



情報を提供するもの

～伝える・広げる支援～

びーすでは、障がい児子育てに必要な情報を、さまざまな方法（ツール）を使って提供する活動を行っています。担い手も、ぬくもり活動のメンバーです。令和4年度は、以下のような活動をしました。

メールニュースふぁにい

設立当初から行っている情報配信活動。購読者のスマホ等に火曜～土曜の朝、ニュースを配信しています。情報収集や取材、原稿作成、配信登録といった活動はすべてボランティアライターが行っています。内容は、障がい児の子育てに役立つあれこれ・いろいろ。令和4年度は、購読者 123 名、配信数 314 本でした。ライターは普段 SNS でつながって「こんな情報を見つけました」「私、この情報を書きます」と連絡しあっていますが、購読している人の声を聞く事がほぼない・・・そこで令和3年度から購読者の感想を聞き取り、ライターへ届ける工夫をしています。令和4年度も実施しましたので、感想の一部を右側に（吹き出しで）紹介します！

ふぁにいの情報とともに、ライターさんの近況がわかるコラムを読むのがとても楽しみです。繋がっている、1人じゃないという安心感が嬉しいです。

ふぁにいで紹介されていた物を購入し、子どもの支援に役立てています。先輩ママさんであるライターさんたちのプチエピソードも毎回楽しみです！

生活支援グッズのお店 ぽっしゅえ

障がいのあるなしに関わらず、暮らしの中の困り感をサポートする『支援グッズ』の展示や販売をしています。運営のほとんどをボランティアのお母さんたちが行って、自分たちの目線で「これいい！」「これ紹介したい！」というモノを用意し、工夫しながらディスプレイをしています。令和4年度は、お店のチラシをリニューアル。母スタッフらしさがあふれるチラシが完成しました。また、外部のイベントに参加をしたり、Facebook での発信にも力を入れました。SNS を通じ、遠方から来店して下さった人もあり、“ぽっしゅえ”を知っていただく機会が多くありました。



『PASSER (パッセ)』『じゅさんあっと堺』とコラボで行っている「授産製品の販売コーナー」は、堺らしい「はにわグッズ」を始め、新学期にピッタリの「布製品」プレゼントに喜ばれる「さをり織の製品」、お友達や自分へのご褒美に「アクセサリー」など多数取り揃えました。特に、ジャムやケチャップは、口コミや Facebook で宣伝したところ、直ぐに買いに来られる人がいるほど反響がありました。

障がいのある方が、丁寧に&素敵に作られている商品たち。お近くに来られた際は、是非お立ち寄り下さい。

啓発や連携をするもの ～広める・つながる支援～

ぴーすには、福祉事業の範疇を超えた、さまざまな依頼や問合せが入ってきます。

それを、NPO 法人の市民活動としてお応えすることで、ぴーすの方針「断らない支援」になるよう工夫しています。

ここでは、個別ケースの相談等ではない、啓発や連携に関することの報告をします。

■ ■ 外部からの依頼を受けて、講師派遣をしたもの ■ ■

ぴーすは「啓発活動の一環」として、障がい児の母親や専門知識をもつ職員を『セミナーや勉強会・講演会』などに講師派遣を行っています。令和4年度に派遣した内容は、以下の通りです。

依頼者	タイトル	講師として派遣した者
堺市（あい・さかい・サポーター養成研修）	障害受容と保護者支援 「あいふあいる」活用セミナーの実際	理事長 理事長・ぴあリーダー
堺市	あい・ふあいる活用セミナー	理事長・ぴあリーダー
新湊小学校	啓発授業【みんなちがって、みんないい！】	あいすて職員、ボランティア
竹城台東小学校	愛着につまずきのある児童の理解と対応	心理担当職員

■ ■ 他機関・団体との協働、協力をしたもの ■ ■

毎年、他の団体や関係機関からの依頼を受け、保護者へのアンケートやイベントPR、商品のモニターなど、ぴーすだからできること・・・として、様々なコラボや協力をしています。

ぼっしえでは令和4年度も引続きパッセとのコラボで授産品販売をしました。また、商品開発への協力等として大栗紙工株式会社、fukufuku312 とのディスカッションも実施。その結果、3月にファインプラザで開催された『わくわくパーク』への出展につながりました。取材はソーシャルハウスさかいの広報誌、ヒアリングは堺市からの依頼で「障害者歯科について」がありました。デイサービス事業では、事業を始めたいという方や障がい児支援を学びたいという学生さんの施設見学などを受け入れました。また、障害者自立支援協議会の障害児相談支援ワーキングチームのメンバーとして、理事長が参加しました。その他、福祉法人へ研修の情報提供、イベントのPR 協力などを行いました。

■ ■ ぴーすの広報活動 ■ ■

ぴーすの最も重要なターゲット「障がい児の母親」に、当法人の活動内容や魅力が届くよう、広報活動を行っています。



ぴーすの活動をタイムリーに配信するためのツールは、ブログ1つとFacebook 3つがあります。

ブログは『ぴーすのブログ』。ぱれっとのプログラムを中心に活動紹介しています。Facebook は、①NPO 法人ぴーす(ブログと同じ内容)、②ぴーすの児童デイ(3つのデイ事業所の活動紹介)、③生活支援グッズのお店ぼっしえです。

令和4年度は、ブログ・FBとも毎週公開し、いろんな活動をお伝えすることができました。特に『ぼっしえのFacebook』は、ボランティアが原稿を作成。母ならではの体験談やおすすめの支援グッズ、時にはグッズを使う子どもの様子の動画も交えながら、たっぷりの見ごたえのある内容となっています。ぜひ一度、ご覧くださいね。

NPO 法人ぴーす 事業所(チーム)一覧

地域活動支援センターぱれっと	堺市委託：地域活動支援センター事業生活支援型 B タイプ
ぴーすの支援プランセンター	堺市指定：障害児相談支援（児童福祉法） 特定計画相談支援（総合支援法）
ぴーすの児童デイぱんだ	堺市指定：放課後等デイサービス・児童発達支援（児童福祉法）
ぴーすの児童デイあぼろ	堺市指定：放課後等デイサービス・児童発達支援（児童福祉法）
ぴーすの児童デイぴころ	堺市指定：児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援（児童福祉法）
ぴーすのあい・すてーしょん	堺市委託：障害児等療育支援事業、地域支援特別事業、障害児通所支援者育成事業
ぴーすのぬくもり広場	市民活動：メールニュースふぁにぃ、生活支援グッズのお店ぽっしゅ

令和 4 年度の利用者数など

ぬくもり広場	ボランティア 50 名（年度末）	活動回数 112 回
メールニュースふぁにぃ	購読者数 123 名	配信数 314 本
市民活動	コラボ回数 19 回	
ぱれっと（地活）	利用延人数 1,151 名	プログラム数 64 回
ぴーセン（相談支援）	契約者数 75 名（年度末）	計画作成数 81 回 、モニタリング数 247 回
ぴころ(保育所等訪問支援)	契約者数 35 名（年度末）	サービス提供数 828 回
あいすて（療育支援事業）	訪問 20 回 外来 96 回 施設支援 37 施設（実数 210 名、延べ数 951 回 、研修 2 回 ）	
（地域支援）	開催数 21 回（おもちゃ広場 17 回、延べ 51 組 ）（あいふぁいあるセミナー 4 回、延べ 6 名 ）	
（育成事業）	施設数 13 事業所 訪問数 47 回 研修 3 回	
ぱんだ（放課後等デイ）	契約者数 37 名（年度末）	サービス提供数 1,956 回
あぼろ（放課後等デイ）	契約者数 21 名（年度末）	サービス提供数 1,538 回
ぴころ（児童発達支援）	契約者数 27 名（年度末）	サービス提供数 1,282 回

太字（支援実施数）の合計 **8704 回**



ぴーす全体の「相談対応」について

相談対応の実人数 **636 名**（うち、新規 **180 名**） 相談対応人数 **523 名**

保育所等訪問支援 42 名 あいすて施設支援 221 名 あいすて訪問・外来 71 名

ぱれっと相談対応 119 名 ぴーセン相談支援 78 名 デイ3つの事業所 105 名

（113 名は、重複）

訪問等を行った施設数（学校園、事業所など） **74 カ所** 相談対応件数 **5,291 件**

保育所等訪問支援 837 件 あいすて施設支援 956 件 あいすて訪問・外来 310 件

ぱれっと相談対応 1,055 件 ぴーセン相談支援 1,815 件 デイ3つの事業所 271 件

通所事業所育成事業 47 件

特定非営利活動(NPO)法人 ぴーす

〒591-8032 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

代表電話 072-250-9060

ぴーすホームページ➡

